



## NPO PTPL “ともいき” 便り No.66

平成 26 年（2014 年）12 月 22 日発行

### ■冬至（とうじ） 12 月 22 日から 2015 年 1 月 5 日までの節気

冬至は太陽の高さが 1 年で一番低くなるので、昼が 1 年で一番短い日です。でも、次の日からは太陽の力が、少しずつパワーアップ！ 気温はぐんと下がって、寒さが一層厳しくなってきますが、一日一日、確実に日が長くなっていきます。冬の間中点、「一陽来復」のころです。

今年最後の「ともいき便り」です。

今年の「ともいき便り」では、異常気象を取り上げることが多々ありました。この原稿作成中にも、北海道から東北、信越、北陸、中国の日本海側、さらには四国、九州、中部にいたるまで 12 月として珍しいドカ雪が降り、大きな被害が出ています。雪災害には無理せず、十分な対策を講じてください。テレビ局の天気予報を見て気がついたのですが、紹介される日本地図の半分以上が雪を表す白いメッシュで覆われています。

夏至というとすぐに「柚子湯」が浮かびます。柚子湯に入れば、柚子の香りがして心が静まり、体が温まって風邪を引かないとか、霜やけにならないとか、無病息災の効があると言われていています。東京都内にはまだまだ多くの銭湯があり、この日は柚子湯を行うところが多いようです。銭湯ごとにそれぞれ違った地域性や雰囲気、味わいがあり、銭湯好きな私は都内のどこの銭湯に行こうか迷いつつ楽しみにしています。

さて、今年を振り返ってみると、様々なことがありました。

スポーツ界では、野球のメジャーリーグや欧州のサッカーでは日本人の活躍は当たり前になりましたが、テニスの錦織選手やフィギュアスケートの羽生選手など若手の活躍が多く日本人を熱狂させました。さらに、学術界ではノーベル物理学賞に青色 LED を開発した赤崎氏、天野氏、中村氏の 3 名が受賞する

など、世界が認める個人の活躍が目立った年でもありました。

一方、原発問題や沖縄問題、TPP 問題、さらには消費税引き上げによる景気の停滞など政治的課題は山積していますが、思うように進んでいません。

今回の衆議院選挙を振り返っても、争点も分からず、いったいこの国の政治家ひとりひとりはいったいどんな国家ビジョンを持って政治にあたっているのでしょうか。

福沢諭吉、中江兆民をはじめとする明治人の単に西洋文化を導入するのではなく日本の伝統、文化、慣習に根ざした、いわゆる日本的につくり変える（日本化）という発想や気概、見識が求められる時代だと感じます。

果たして、来年の日本の行く末はどうなっていくのでしょうか？ 日本人ひとりひとりが真剣に日本、日本人の在り方を考えなければ、この国の行く末が決まるように感じます。

そんな背景の中、NPO PTPL が提唱する「ジャパネスク」という価値観・生活観がきっと、多くの人々に日本人としてのDNAを呼び覚ますことを願っています。

「ジャパネスク」サイトをぜひ、ご覧ください。

<http://japanesque.tokyo/>

佐藤 誠 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局)

## ■ ともいき・ともうみ・ともさち雑感彼は

**「ともいき」「ともうみ」がつくった「手漉き和紙」、ユネスコ世界無形文化遺産に登録。**

(「手漉き和紙」についての調査、取材のため、1 か月ぐらい情報が遅れてしまいましたが、) ものの本によると、製紙技術は大陸伝来のものであり、7 世紀初頭に製法を知る僧侶が朝鮮半島より来日したという記録が「日本書紀」に残っているそうです。

大陸から伝わった技法(溜め漉き)からやがて日本独自の「流し漉き」が考案されました。

原料のクワ科の植物「楮(コウゾ)」などの長い繊維を均一に絡み合わせるため、ネリと呼ばれる植物性粘液を加えた紙材液を流し、動かして漉き上げる技法で

す。(テレビで和紙の製造過程の映像が再々放映されたので覚えている方も多いでしょう。)

流し漉きにより、ごく薄く、しかも非常に丈夫な和紙がつくられるようになりました。(奈良・正倉院には702年の和紙を使った美濃、筑前、豊前の戸籍用紙が残っています。)

このようにしてつくられた「手漉き和紙」は、文字や絵を伝える媒体としてばかりでなく、生活の中に入って障子となり、行灯となり、扇などとなって日本人の暮らしや文化のなかに根付いてきました。

そして、薬品を使うことなく真っ白な紙を漉くためには、清らかな水が欠かせません。和紙の伝統は日本の風土と深く結びついているのです。

「ともいき」と「ともうみ」という目に見えないジャパネスクが、和紙という目に見えるジャパネスクをつくり上げました。

ここにも「ともいき」と「ともうみ」が脈々と息づいています。

天然素材の手漉き和紙は、手間がかかり、効率が求められる現代の論理とは相いれないでしょう。しかし他に類を見ない質の高さが認められたのです。

この伝統が途切れないように守っていききたいですね。

#### ※注

①本美濃紙(岐阜県美濃市)、細川紙(埼玉県小川町、東秩父村)と既に登録済みの石州半紙(島根県浜田市)をグループ化した和紙製造技術として登録が決まりました。

②手漉き和紙の最大産地、「越前(福井県)」が登録から外れた理由は保存会組織がなかったことだそうです。

福井県文化振興課では「これから生産者と連携して保存会を立ち上げ、追加登録につながる取り組みをしていきたい」と言っています。

③従来の和紙利用方法だけでなく、現代の生活の中で使われる和紙の利用開発、製品開発を進めるべきですね。

「手漉き和紙」を使ったイノベーションに期待します。

## ジャパネスク



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

●今年、最後の「ともいき便り」となりました。

皆さんお読みいただき、どのように感じられたでしょうか。

事務局としては、皆さんからのご意見、ご感想お待ちしております。

皆さんのご意見、ご感想をもっと反映し、より充実した「ともいき便り」やフェイスブックづくりを心掛けたいと思います。

●今年も多くの方々にご支援、ご協力をいただき、本当に感謝申し上げます。

来年もこの便りやサイト、フェイスブックを通してNPO PTPL活動を発信していきます。これまで以上のご支援ご協力をお願いいたします。

皆さんにとって、来年、素晴らしい年になりますようにお祈り申し上げます。

●フェイスブック「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」

<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo>

「ともいきぐらし」<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士計画 ふるさと富士山探し」<https://www.facebook.com/oragafuji>  
来年もご支援のほどよろしく申し上げます。

●会員募集のご案内

NPO活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPLでは、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAXにてお尋ねください。

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階

電話：03-6205-7503 FAX：03-6205-7504

Email：info@plantatree.gr.jp